

平成27年度 第3回花見川区支え合いのまち推進協議会議事要旨

日 時 平成28年2月24日(水) 午後2時～午後4時50分
場 所 花見川保健福祉センター3階大会議室

出席委員数	17名
欠席委員数	9名
オブザーバー	1名
傍聴人	1名
事務局	9名

【1】次第

- 1 開会
- 2 議題 (1) 花見川区支え合いのまち推進計画の推進状況について
(2) 重点取組項目(地区部会エリア別)について
(3) その他
- 3 講演 「千葉市の認知症対策について」
- 4 閉会

【2】議事要旨

委員定数26名のうち、9名の欠席を確認し開会した。

議題(1) 花見川区支え合いのまち推進計画の推進状況について

事務局より、資料1をもとに新たに追加された項目を報告し、資料2により引き続き情報提供を求めた。

(追加項目)

- ①-検見川地区部会エリア 『夏休み子ども工作教室』、『ふれあいサロン”けみがわ”』
- ①-犢橋地区部会エリア 『小学生「昔あそび」』、『模型飛行機・縄とび大会』
- ⑤-犢橋地区部会エリア 『「健康教室」の開催』
- ⑦-花見川地区部会エリア 『地域参加支援事業を生かした手作り公園化構想の推進』
- ⑧-花見川地区部会エリア 『地域支え合い事業の再構築と拡大』

<質疑応答>

委 員 : 地区部会単位の活動ではなく、花見川区全体にかかわる活動についてはどのように報告すればいいのか。

事 務 局 : 資料1では、地区部会単位の活動の他に「全区的な取り組み」の欄も設けている。報告には、区全体にかかわる活動であることを記載してもらいたい。

委 員 長 : どのような活動を行っているのか。

委 員 : 「花見川区顔の見える医療・介護連携の会」をこれまでに5回開催した。地域の医療と介護の連携を目的に、退院される方の事例検討や勉強会を行ってきたが、今後も継続していくのでぜひ掲載したいと思う。

議題(2) 重点取組項目(地区部会エリア別)について

各地区部会長等より、資料3をもとに重点取組項目の取組状況について説明があった。

<質疑応答>

委 員 長 : (A地区部会について)

防災に関する取り組みだが、自治会ではなく地区部会が主体となって取り組

- んでいるのか。
- 委員：祭りを中心に活動している自治会が多く、なかなか動いてもらえない。地区部会がやるべき事でないと言われたこともあるが、もしもの場合に備えて、地区部会で声を上げて取り組んでいる。
- 委員長：(B地区部会について)
「サロン活動による見守り」とはどういう事か。
- 事務局：サロンに参加している方について、来たかどうかを確認している。
- 委員長：サロン活動では具体的にどのような取り組みがあるのか。
- 事務局：まず、地区部会が実施している「交流広場ふれあい」や「歌声喫茶」等があり、合唱や講座、クリスマスツリー作成等の活動を行っている。
また、自治会主体のお茶を飲んで話をするサロンなど、さまざまである。
- 委員長：(C地区部会について)
サロン活動を特定の自治会館で実施しているとのことだが、参加者に偏りは無いのか。
- 委員：当部会は範囲が狭いので、あまり参加者の偏りは無い。大体2～30人が参加している。
- 委員長：(D地区部会について)
見守り活動とのことだが、自治会単位の協力を得ないと実現は難しいのではないか。
- 委員：自治会単位での協力を得られるよう、自治会長に説明をお願いしているがなかなか難しい。
- 委員：高齢者の防犯・防災については、自治会できちんと取り組んでいる。自治会もそれぞれ設立の経緯や歴史が違い、運営方法も異なっている。そこに地区部会が入って統括するとなると自治会でも意見が割れてくるので、当面は現状の形で進めて行きたいと考えている。
- 委員：地区部会としては、見守りに限らずほとんどの項目に取り組んでいる。
ただ、今回の計画で3年間かけて取り組むテーマということで困難な問題を選んで取り組んでいる。
- 副委員長：(E地区部会について)
「ご近所助け合い事業」のコーディネーターはどのような人がなっていて、どのような仕事をしているのか。
- 委員：コーディネーターは、各町会から町会長と民生委員など2～3名を選出している。コーディネーターは依頼者と登録ボランティアとの橋渡しを担っており、支援内容は依頼者とボランティアが直接、話し合っ決めて決めるシステムになっている。
- 委員：(F地区部会について)
地区部会の中の6町会のうち5町会がすでに防災会を組織しているとのこと、残る1町会が入っていないが理由はあるのか。規模が小さいから必要ないという事ではないか。
- 委員：当該町会で必要ないという判断になれば仕方がないが、地区部会としては全ての自治会に設立をお願いしている。

議題（3）その他

事務局より平成28年度の推進協議会委員の選任について説明があった。
次いで、事務局より今回が本年度最後の推進協であることが伝えられ、原田委員長、金子副委員長から挨拶があった。

講演 「千葉市の認知症対策について」

地域包括ケア推進課より、資料4に基づき「千葉市の認知症対策について」の説明が、追加配布資料に基づき、あんしんケアセンターの増設に係る担当圏域の設定について、説明があった。

<質疑応答>

委員長：認知症の患者数は8人に1人と説明していたと思うが変わったのか。

地域包括ケア推進課：これまで、8人に1人という資料で説明してきたが、2025年の推計として概ねそうなるのではないかという事で、説明資料にはクエスチョンマークを付けていたと思う。あくまで推計値として、2025年にはそういった時代が到来するのではないかという説明であった。

委員長：認知症有病者数は15%という事だがこんなにいるのか。

地域包括ケア推進課：有病者数については、具体的にそれぞれの地域で認知症患者を数えることは困難である。そこで全国10の自治体をサンプルに調査を行った結果を参考として、推計値にしたものである。

委員長：我々も地域でそれなりに調べており、他の地域にも聞いているが、出現率は1%程度。もう少し千葉市の実情を調べてもらいたい。仮に、市全域が難しいのであれば、一部の地域を抽出して調査する等してもらいたい。

地域包括ケア推進課：検討させてもらいたい。

委員：あんしんケアセンター（※以下「あんしん」）を増設する際の担当圏域案については、社協地区部会の区割りを考慮したとの話であったが「さつきが丘・宮野木台地区部会」が分断される形になっている。どういう事か。

地域包括ケア推進課：担当部署に地区部会の区域を確認した際に、さつきが丘と宮野木台が別の地区部会であると認識してしまった。改めて確認したい。

委員：あんしんの担当圏域については、社協地区部会などの意見を聞いたとのことだが、地区部会未設置地域についてはどうなるのか。

地域包括ケア推進課：地区部会のない地域については、既存の圏域を基本として案を作成した。

委員：今後はどうなるのか。地区部会の設置は進むのか。

地域包括ケア推進課：社協地区部会の設立について当課からは言及しにくいですが、社協と情報を共有していきたい。

委員：前回、あんしんを増設した際には、新たな考えを持った法人が入ればと思っていた。今回はどのようになるのか。

地域包括ケア推進課：法人の選定にあたっては、これまでの実績を考慮し、地域の利用者との関係性を維持する方向で検討している。新たな法人の参入等で、急にこれまでの関係性・やり方が一変するようなことはなるべく避けたいと考えている。

委員：あんしんが増設される際に、基幹型は設置されないのか。

地域包括ケア推進課：高齢者保健福祉推進計画において、基幹型センターの設置に向けて検討を進めることとしている。

現在、設置数や運営の形態などを含め、今後、どのような形で設置すべきなのか慎重に検討している。

委員：あんしんと居宅介護支援事業所は、介護予防事業の面ではやり取りがあるが、任意事業など全体の活動は分からない。また、今年の10月には総合事業も開始されるとのことで、活動が非常に多岐にわたることになると思う。そうした情報発信についてはどのように考えているのか。

地域包括ケア推進課：活動状況はなかなか見えにくいという話があり、活動実績などをまとめて説明する場を設けなければと考えているが、地道な活動、例えばあんしんケアセンター職員の多くが、キャラバンメイトとなり地域で認知症サポーター養成講座を開催している等についても、整理して発信していきたい。

委員：今現在、情報発信の手段はあるのか。例えばレポートの公表などを行っているのか。

地域包括ケア推進課：現在は、千葉県社会福祉審議会の下部組織である「あんしんケアセンター等運営部会」という部会の中で、委員に活動状況を報告している。一方、市民への認知度の向上を図るため、活動状況等に関する情報提供については、より積極的に取り組んでいく必要があると考えている。

(閉会)

花見川保健福祉センター所長が閉会挨拶し、午後4時50分、花見川区支え合いのまち推進協議会を閉会した。